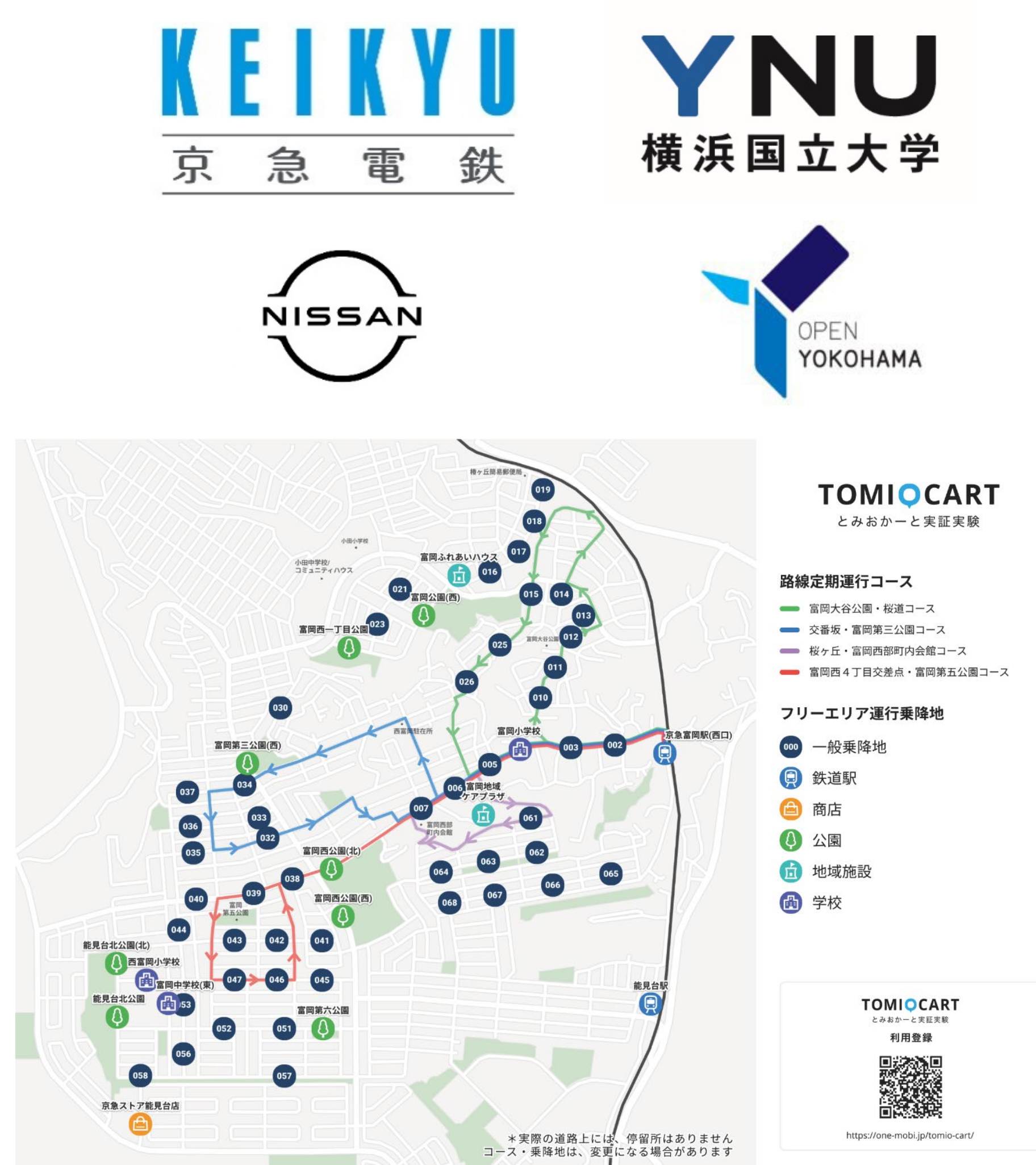
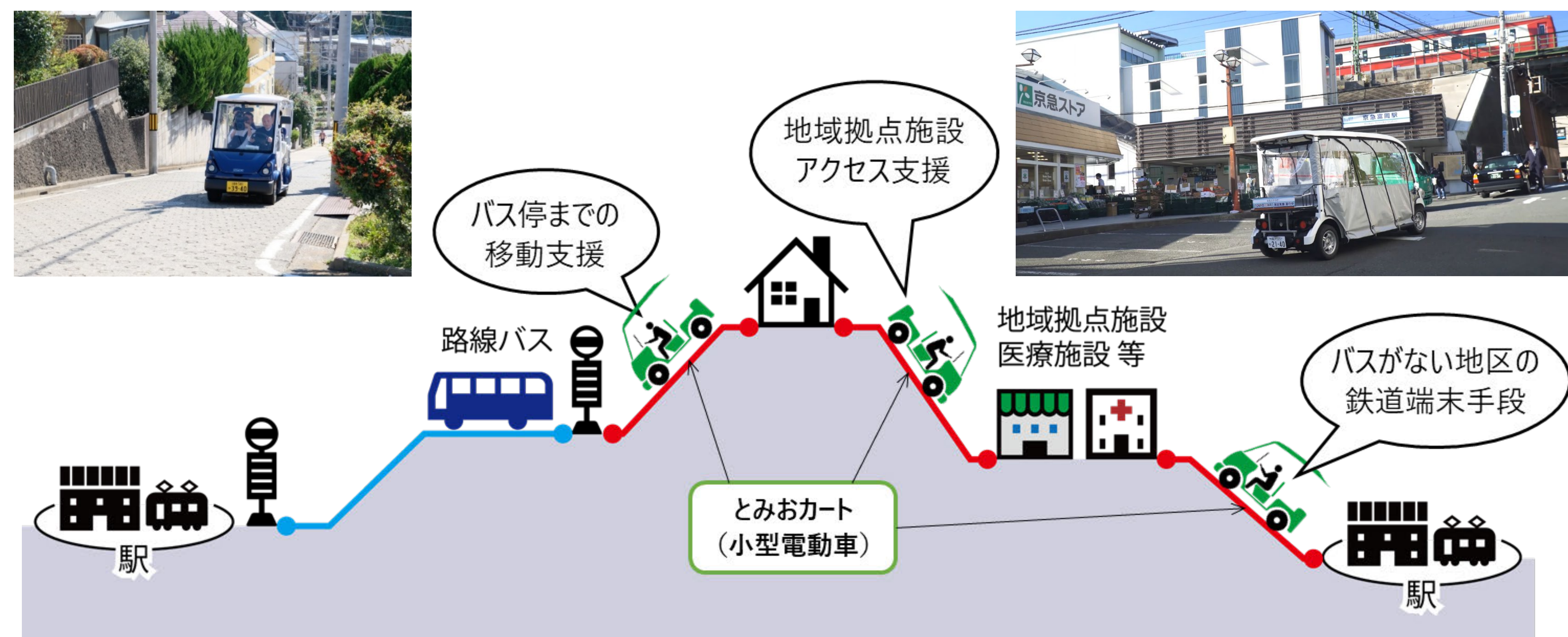


内容：既存公共交通を補完する、**小型電動車等**を用いた**小量乗合輸送サービス**
目的：高齢化の進む大都市郊外丘陵住宅地における、**居住者の外出支援**
ゴール：**自家用車に依存し過ぎない生活**の維持、鉄道沿線としての**総合的価値の向上**



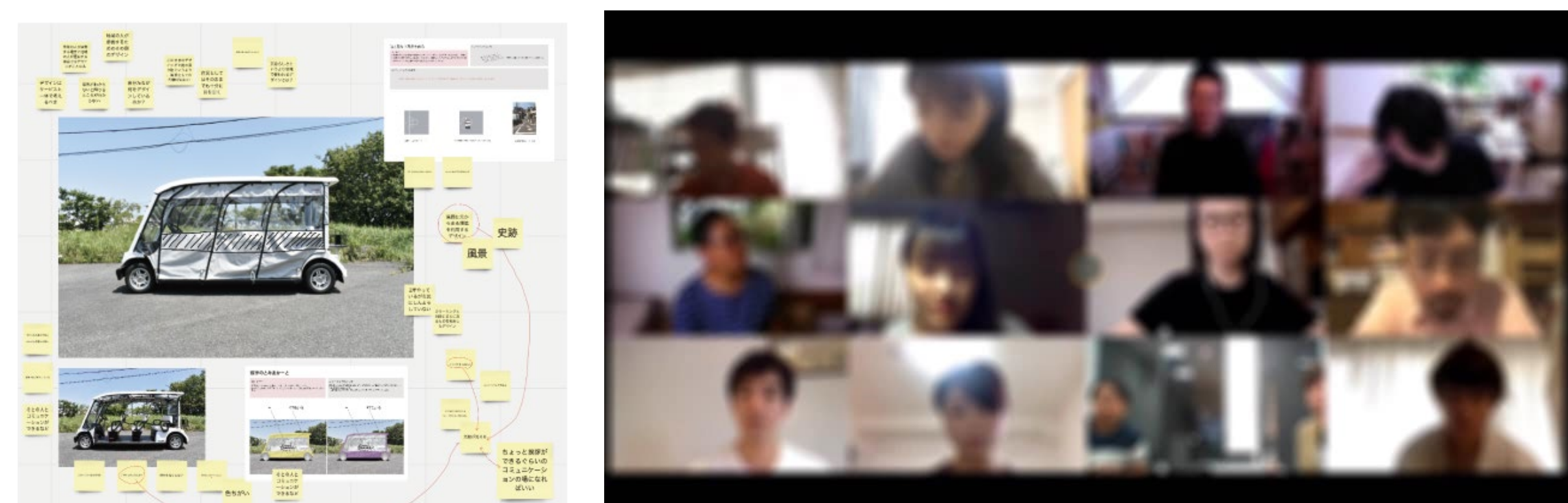
2020年度実証実験での運行ルート

モビリティ車両の市民参加型デザイン

小量乗合輸送サービスで使用する電動カート車両を、市民参加のワークショップを通してデザインしている。
実証実験での使用からのフィードバックを得てデザインを進化させている。

- ✓ 利用者ニーズと一致するデザイン
- ✓ 住民の主体性・ソーシャルキャピタルの醸成→社会的持続可能性(地域で支えるモビリティ)
- ✓ 市民と専門家の双方の学び(共進化)
- ✓ 特色あるまちづくり

2020年9月 第一回ワークショップ
地域の魅力やデザインに求められる課題を話し合う。

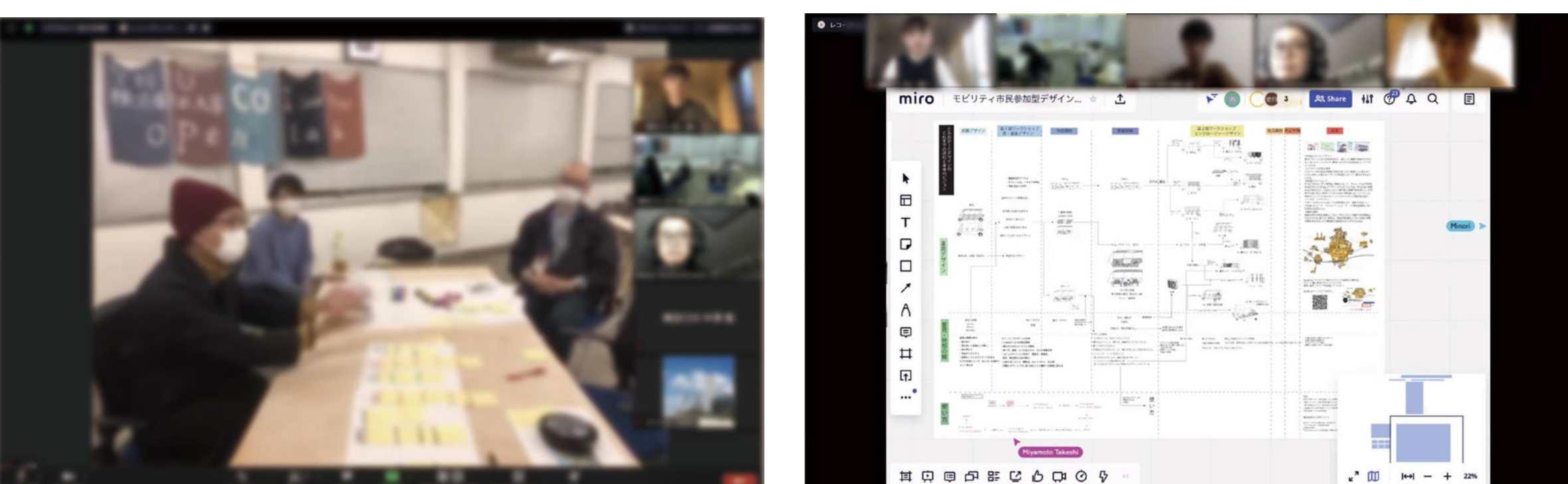


ワークショップの結果をふまえて
デザインを具体化

乗り方や路線を描いたカラーリングと、入ることをいざなう「暖簾」。
2020年10月からの実証実験で使用。



2020年11月 第二回ワークショップ
実証実験を踏まえて既存車両の課題を話し合い、新しいデザインを模索。
乗り降りのしづらさが課題として挙がる。

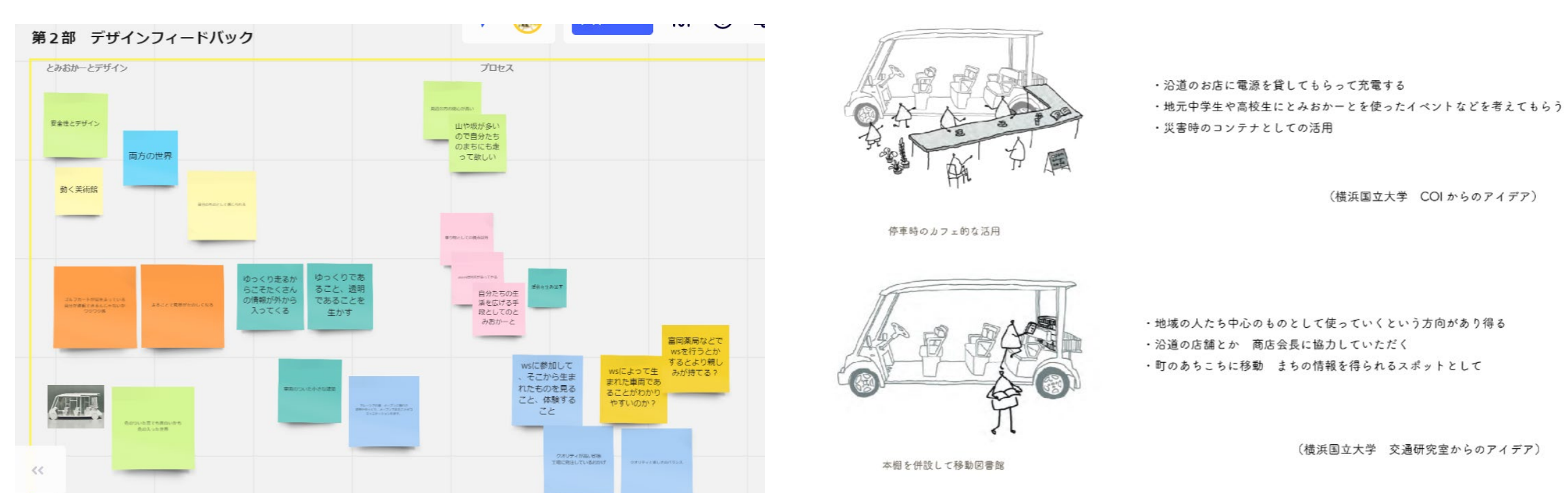


ワークショップの結果をふまえて
デザインを具体化

乗り降りしやすい「スライドドア」を設置。2021年1月からの実証実験で使用。



2021年3月 第三回ワークショップ
2020年度の活動の振り返りと2021年度の活動の構想。
停車時の車両の拠点的利用方法を考える。



ワークショップの結果をふまえて
デザインを具体化

車両に付設するテントや什器を制作。
2021年6月の地域のまちづくりイベントにおける車両の拠点的利用の様子。

